

秋の味覚を販売 産業まつりが開催



10月14日、今年で37回目となる上ノ国町産業まつり（同実行委員会主催）が役場前駐車場で開催され、2000人が訪れました。

台風25号の影響のため1週間遅れての開催となりましたが、町内の22事業者が出店。それぞれの店頭には、豚肉や果物、木工品、ストープなどが並んでいたほか、上ノ国産の新米やホタテの特売には長蛇の列ができていました。

このほか、小学生を対象とした鮭のつかみ取りやかたこもち撒きなどの催しも行われ、会場は活気に満ち溢れていました。

カシワやナラなどの苗 1000本を植樹



10月11日、上ノ国町日本海グリーンベルト構想推進協議会（花田英一会長）主催による「豊かな海づくりのための植樹祭」が大安地区で行われ、漁業者や中高生など約150人が参加しました。
この取り組みは磯焼けが進む本町沿岸部を海藻豊かな海に復活させることを目的に平成18年から行われています。
はじめに花田会長が「50年後には立派な森となることを期待したい」と挨拶し、続いて参加者はカシワやナラなどの苗木約1000本を手分けして植樹。毎年参加している方もおり、慣れた手つきで植樹作業を進めるなか、初めて参加した中学生に指導する様子も見られました。
参加者は今回植樹した苗木が豊かな森となることを願っていました。

児童、稲を刈り取る



町内の水稻の刈り取り作業は9月下旬から10月下旬にかけて行われ、このうち、10月5日には上ノ国小学校5年生21人が稲の刈り取り作業を実施しました。

この取り組みは春の代かき、田植えから一連したもので菊池和雄さん（字北村）の指導のもと、稲を刈り10株ごとに束ねる作業を実施。児童は始めはぎこちない手付きで鎌を扱っていましたが、慣れるにつれて「簡単だ」と話しながら手早く刈り取りしていました。

今回刈り取りした稲は4週間ほど自然乾燥した上で、児童の手により脱穀作業が行われるそう、自分たちが関わったできたお米を食べるのを楽しみにしていました。

災害に備え、実際の建物を 利用した訓練を実施



10月16日、救助技術の向上を図ろうと消防職員技術練成会（檜山広域行政組合消防本部主催）が解体予定の旧花沢温泉簡易浴場で行われ、檜山管内7町の消防署員29人が参加しました。

訓練は、爆発事故で建物内に行方不明者がいることを想定して行われ、エンジンカッターなどの機材を用いて建物を破壊しながら内部に侵入する救助活動を実施。実際の建物を破壊して訓練する機会がないことから、参加した隊員は、実践しながらの雰囲気の中、迅速かつ的確に取り組んでいました。

北海道胆振東部地震をはじめとした災害が全国各地で発生していることから、いつ起こるかわからない災害に備え、消防署員は救助技術向上に努めていました。